

第3章 住民意向

3-1. 余市町住民意向調査「まちづくりアンケート」の概要

(詳細は巻末資料を参照)

余市町都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定にあたり、アンケート調査を行い、現在の暮らし向きや今後の施策の重要性など、広く町民の意見を把握しました

■調査の概要

- 調査時期：令和4年8月5日～8月22日
- 調査対象：18歳以上の居住者4,000人を無作為抽出
- 回収数：1,381人(回収率34.5%)

■結果の概要

○都市機能誘導施設の利用状況のうち商業施設では、食料品や飲料などの買い物に最もよく利用する店舗は、「イオン余市店」が33.7%、「コープさっぽろ余市店」が33.3%と、2つの店舗に回答が集中しました。

一方、地域に密着したスーパーマーケットやドラッグストア、コンビニエンスストアは比較的少数ですが、最もよく利用する店舗ではないにせよ副次的に利用されて回答者も多いことが考えられます。移動手段等は、「自家用車」が64.1%で最も多く、「徒歩」が14.8%、「自転車」が8.2%となり、バスやタクシーの利用はほとんどありませんでした。

家電・家具や衣料品、趣味用品などの買い物に最もよく利用する店舗は、「イオン余市店」が32.1%、「ケーズデンキ余市店」が17.8%、「DCMホームック余市店」が15.9%と、3つの店舗に回答が集中しました。少数意見では、札幌市や小樽市など余市町以外にある店舗が多くみられ、食料品などの購入よりも利用範囲が広域に及ぶことが理解できました。移動手段等は、「自家用車」が63.6%で最も多く、「徒歩」が5.9%、「自転車」が7.6%となり、バスやタクシーの利用はほとんどありませんでした。最もよく利用する金融機関は、「信用金庫」が36.9%で最も多く、続いて「ゆうちょ銀行」が26.5%、「北洋銀行」が24.2%と、3つの機関で9割以上の回答数となりました。移動手段等は、「自家用車」が61.3%で最も多く、「徒歩」が16.9%、「自転車」が8.5%となり、バスやタクシーの利用はほとんどありませんでした。

医療施設では最もよく利用する通院施設は、「余市協会病院」が25.6%で最も多く、続いて「中島内科」が16.0%、「池田内科クリニック」が9.6%となり、回答者からは約80施設と多くの病院・診療所があげられました。移動手段等は、「自家用車」が65.9%で最も多く、「自転車」は7.9%、「バス」や「タクシー」は5%程度の利用と、他の店舗や施設への移動と同じく、自家用車に依存している傾向がみられました

児童福祉・教育施設で保育園・幼稚園では、「杉の子幼稚園」が25.0%、「リタ幼稚園」が23.5%と利用が多くなりました。以下、「ほうりゅうじ保育園」「中央保育所」「大川保育所」「夢の森幼稚園」が少数、「あおぞら保育園」「あかつき保育園」「職場の附属の保育園」「蘭島保育園」がごく少数でした。移動手段等は、「自家用車」が63.2%で最も多く、続いて「送迎車」が多くなりましたが回答は13.2%となり、他の店舗や施設への移動と同じく、自家用車を主とした手段である傾向がみられました

介護福祉施設では、通所型の福祉施設の利用は、「フルーツ・シャトーよいち」が12.5%、「デイサービス花ごころ」が9.4%、「デイサービスひかり」が7.8%、「デイサービスセンターかるな」「介護老人保健施設よいち」「老人福祉センター」が6.3%となりました。移動手段等は、「送迎車」が68.8%で最多でした。

- 災害危険区域**について、「津波浸水想定区域」28.7%、「該当しない」18.7%、「洪水浸水想定／氾濫危険区域」17.0%、「土砂災害警戒区域」5.0%と、自宅が該当するかを認識している回答を合わせると大多数ですが、「自宅は該当しているかわからない」も35.8%と多くの回答がありました。災害への備えでは、「避難場所を把握している」が41.9%で最も多くなりましたが、「特に何もしていない」も30.1%と、次いで多い割合となりました。
「地区の危険性を把握」28.0%、「防災グッズを準備」27.5%、「非常食を備蓄」24.6%、「災害情報を得る方法を把握」は18.8%、「災害対応について家族・住民同士で話し合いしている」14.0%も一定の割合を示しています。
最も少なかったのは、「避難訓練へ参加している」で、1.2%しか回答がありませんでした。
- 土地の使い方**の満足度は、どの項目も「どちらともいえない」が3～5割程度で最も多く、満足では「快適な住宅地形成・保全」、不満では「空き家・空き地の対策」「まちなかのにぎわい」「レク施設の充実」「公的施設や民間施設等の誘致」が比較的多くなりました。
重要度では、「空き家・空き地の対策」で「重要」が27.2%、「やや重要」が30.4%となりましたが、他の項目と大きな差はありませんでした。
- 道路や交通**の満足度は、「除雪やロードヒーティングなどの雪対策」で「不満」が27.7%、「やや不満」が29.2%、「余市IC開通による幹線道路の渋滞対策」で「不満」が26.4%、「やや不満」が24.6%など、どの項目も満足よりも不満に対する回答が多くなりました。重要度では、「除雪やロードヒーティングなどの雪対策」で「重要」が49.9%と、他の項目と比較して20%程度多い割合を示しました。「身近な生活道路の整備」も「重要」「やや重要」を合わせると比較的多い割合を示しました。
- 公園や緑地**の満足度は、どの項目も「どちらともいえない」が4割程度で最も多く、項目ごとの大きな違いは見られませんでした。
重要度では、「やや重要」が「身近な公園・憩いの場の整備」で32.6%、「花壇・花木が充実した公園の整備」で30.1%、「たくさん遊具があり、子どもが遊べる公園の整備」で30.0%と多くなりましたが、項目ごとの比較では大きな差はありませんでした。
- 防災や防犯**の満足度は、「街灯・防犯灯の充実」が他の項目に比べて「どちらともいえない」が少なく、満足・不満いずれの回答も多くなりました。他の項目（避難路・避難所・防災公園の整備、河川氾濫・津波浸水・土砂災害対策、防災訓練の実施、防災情報の発信）は「どちらともいえない」が5割程度で最多となりました。
重要度では、「防災公園の整備」と「防災訓練の実施」は、他の項目よりも重要・やや重要の割合が低くなりました。
- 暮らしやすいまち**になるために最も重要なことは、「医療・福祉の充実」が47.6%で最も多く、続いて「市街地や商店街の活性化」が36.6%、「公共交通機関の充実」が32.5%となりました。
- 自由記述**では、450件の回答が得られ、内容では「余市IC開通に伴う周辺道路交通量増加への対応」、「老朽化に伴う道路や公共施設の整備」、「JR廃線をはじめとする地域公共交通のあり方」、「除雪の充実」、「高齢者や子育て世代への支援」、「道の駅や火葬場への要望」が多くなりました。

3-2. アンケートから見る余市町の進むべき方向性

今回のアンケートでは、多くの住民がまちづくりに関して様々な問題意識を抱えていることが把握できました。町民の意見は、広く・継続的に取り入れ、施策に反映できるしくみを構築することが求められます。

都市計画マスタープラン及び立地適正化計画が、実効性のある計画とするために住民主体のまちづくりを進め、持続可能な都市運営を図ることが重要と考えられます。

(1) 都市機能施設利用エリア

アンケートで各都市機能施設を利用する場所を訊いた結果、下表の地区を利用することがわかりました。比較的多く地区名が挙げられたのは、黒川、大川、浜中、美園、沢、富沢でした。

誘導区域を設定するにはこの地区を中心に、施設の立地状況や防災上のリスク、現在・将来の人口密度等を勘案して区域の形状を検討します。

都市機能施設利用マトリクス

| 都市機能施設 | 東部地区 | 中部地区 | 西部地区 |
|----------------|------------|------------|---------------|
| 1. 日用品 | 黒川 | 黒川 | 黒川 富沢 |
| 2. 家電・家具・衣料品等 | 黒川 | 黒川 | 黒川 |
| 3. 金融機関 | 黒川 大川 | 黒川 大川 | 黒川 沢 |
| 4. 医療機関 | 黒川 大川 (小樽) | 黒川 大川 (小樽) | 黒川 大川 浜中 (小樽) |
| 5. 保育園(所)・幼稚園等 | 黒川 沢 大川 | 黒川 沢 大川 美園 | 黒川 沢 |
| 6. 通所型福祉施設 | 黒川 入舟 大川 | 黒川 入舟 大川 沢 | 黒川 入舟 沢 浜中 |

(2) アンケートから見る余市町の進むべき方向性

アンケート調査の結果から余市町の進むべき方向性は以下の項目を重視すべきと考えられます。

- ①人口減少、少子高齢化への対応
- ②拠点・都市規模の設定
- ③防災・減災対策の強化
- ④空き家の増加が招く居住環境低下への対応
- ⑤住民主体のまちづくりの推進